

議長定例記者会見の概要

日 時：令和6年12月10日（火）
午前11時30分～11時50分
場 所：議長応接室



11月定例会を終えての議長の所感

（瀨砂議長）

大変お忙しい中にお集まり頂きまして、ありがとうございます。

11月定例会も本日をもって19日間の短い期間ですが、会期を終えました。

今定例会では、台風第10号等により発生した被害の早期復旧や、獣医師確保に係る事業費、また、国の補正予算に係る国土強靱化対策などの追加提出分を含め、合計33件の知事提出議案を全て認めたところであります。

このほか、議員発議の議案として、避難所生活改善、民生委員・児童委員の処遇改善に関する2件の意見書を可決いたしました。

一般質問では、11月27日から12月3日の5日間で19名の議員が質問いたしました。

今年は、元旦に能登半島地震が発生し、本県においても日向灘沖の地震や台風、大雨により大きな被害が発生したことから、今定例会においても、防災・減災対策に関する質問が多く、また、県より報告された東九州新幹線等の3ルートの実験結果や第一次産業の振興、教育・福祉など、県民の抱える様々な課題について、活発な議論が展開されたところでございます。

また衆議院選挙や米国大統領選挙結果の影響といった事項も取り入れられており、県議会としても、引き続き、内外の諸情勢の動向を注視しながら、調査や政策提言など、議会に求められる役割をしっかりと果たしてまいりたいと思っております。

先週には、川南町で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認をされました。

県議会では、先週、大規模地震を想定した避難訓練を実施いたしました。

県民の皆様にも常在危機の意識を持って、日頃の備えをお願いし、新年が平穏で良い年になることを心から願っております。

私からは以上でございます。

質疑応答

【読売新聞】

今回の議会でも取り上げられた東九州新幹線は全国的な注目も集めたかと思いますが、実際にルートを引き場合には、各地域からの要望を集約するという意味で、議会の役割は非常に重要かと思いますが、改めて、東九州新幹線を今回の議会で扱った所感をお伺いします。

(濱砂議長)

東九州新幹線については、福岡、大分、宮崎、鹿児島で東九州新幹線の期成同盟会をつくっております。議長が集まって、毎年、協議もしますし、要望もしているのですが、50年近く全く動いていないというような状況の中で、今回、3ルートそれぞれの調査結果の報告を受けたのですが、これに基づいてどのように進んでいくかという方向性は示されておられません。

ですから、どういうことかということで、委員会等でも話をつめたようなのですが、具体的にどこを進めていくというものではないと。県民の機運醸成を図るための一つの手段であるというような方向なものですから、私どもとしましては、はっきりと決めていただきたい気持ちはあるのですが、東九州新幹線というのが基本でありますので、ここを基本にして、これからどうするかということになっていくのかなという気はしております。

具体的なものが何も出てきておりませんので、その辺をはっきりとは申し上げられないんですけど、そのような経過が今の状況です。

(野崎副議長)

今回、3ルートの概要が発表されましたけれども、県民が新幹線について考える材料が示されたレベルかなと思います。

3ルートは建設費用も銘々違いますし、福岡や北九州に行く所要時間も違います。また、これは順調にいつ始まるのが40年ぐらいかかるということで、その間にこの世の中がどう変わっていくかという流れを見ながら、その重要性や決まってくる過程で自治体にどれくらいの負担があるのかとか、そういったものが詰められていくのかなと思います。

長いスパンのお話ですが、もうみんな新幹線がすぐできるんだね、いつできるのかといった話になるものですから。今からいろいろ始まるということで、それが県民にとって、こういった考える資料が提示されることは機運醸成のまず第一歩かなと思います。

一つ考えるのは、人を運んで経済を潤すという考えも大事ですけど、陸の孤島の宮崎ですから、ここのモノをどのぐらいのスピードで、福岡や北九州に運んでいくのかというのは新幹線に限らず大事な視点じゃないかなと思います。

【宮崎日日新聞】

東九州新幹線の調査について、この調査結果が出たことで、例えば期成同盟会における他県の議長と何かお話をされていたり、今後、お話をする中でこれまでよりも踏み込んだ話ができるのかなという部分であったり、そのようなところを踏まえた期待感や現状で既に何か話をされていることがあれば教えてください。

(濱砂議長)

4県議会議長会で、会長が福岡県、副会長が残り3県ということなんですが、福岡県の議長から話がありました。東九州新幹線の早期実現についての協議ということでありましたが、協議事項の中には、新八代と鹿児島の二つのルートというのは入っておりませんので、議長会の

中で協議はされておられません。

今年度は8月に九州運輸局と九州地方整備局、JR九州本社に要望をしております。11月には自由民主党本部と国土交通省、西日本高速道路に議長会で要望しております。

【共同通信】

東九州新幹線の調査について、今回の大きな目的が機運醸成というところだと思うのですが、けれども、結果が公表されて以降、地元の方々などから質問があったりですとか、機運が高まっていると実感する機会はありましたでしょうか。

(濱砂議長)

何人かに話を聞かれたことはありますが、それこそ先ほど副議長が言われたように、すぐにできると勘違いをしているんですね。やっぱりすぐに着手してね、10年後ぐらいには開通するんだよというような感覚で考えておられますので、いや実はそうじゃないんですよ、幾ら早くても40年ぐらいかかるんですよという話をすると、機運醸成というよりも、そういうもののなんですかと。関心はあるけれども、そういう長いスパンになると話がそこで途絶えてしまう。

(野崎副議長)

40年もかかるのなら、できる頃には我々はいないよねというような。しかしながら、感覚的なところですから、新幹線が3ルートだとかいうところは。

(濱砂議長)

あるに越したことは無いわけで、無いよりはあったほうがいいわけですから。

【読売新聞】

兵庫県知事選をめぐって、県議会議員も百条委員会の委員を務められたり、何をもって個人攻撃とするのか判断が難しいんですけれども、開かれた議会ということで、議員個人もかなりプレッシャーにさらされる時代になってますけれど、兵庫県の事例を見て、どういうふうにお考えなのか、議員の間で誹謗中傷対策にどのように取り組んでいくのかという議論があるのかお伺いします。

(濱砂議長)

兵庫県は極端な例で、事実であったかどうかというのは我々も全く分かりません。

例えば、宮崎県でというようなことになれば、何かの動きをとということになってくるでしょうけど、他県の例が実際にどうなのかというのは、ちょっと判断が難しく、何とも答えようがない。

宮崎県の場合だったら、直接的に各議員がそういったことを見たり聞いたりあるいは経験したりということになれば調査が必要かもしれませんが、そこまでの事例も全くありませんので、私の個人的な考えとして何もないかなという感じですね。申し訳ないですが。

(野崎副議長)

百条委員会の設置は相当なことです。虚偽の話をすると罰せられますから。そして全会一致で不信任決議案が可決されるという異様な感じです。でも、また再選されたら、今度は寄り添っていくというですね。もうこれは有権者にとっては特殊なことです。

何か社会を巻き込んだ雰囲気をつくって、それがまた選挙で逆転してるという。

百条委員会を立ち上げるなら、本当に慎重に立ち上げて議論しないといけない。我々議員が委員になって質疑するんですから。何かもう、いかにも確信的なものがあってという感じでなければ。想像でやったのかどうか分からないですけど、そういうような雰囲気を感じ取れたところもあったので。

我々議員としては、そこまで持っていくのであれば、やっぱり慎重な議論が必要だと思います。

(濱砂議長)

やっぱり既成事実を自分の目で確かめない限りはできないですね。

【宮崎日日新聞】

いわゆる 103 万円の壁の問題で、税収が減るのではないかという懸念もある中で、県議会として意見書等で意思を示されるのかお伺いします。

(濱砂議長)

まだはっきりしていません。

確かに、地方の立場から税収だけを考えると、それは税収が減ってくるわけで、その補填がどうなっていくのかも分からない。今から議論が十分なされていった結果でないと、我々としては何とも言い様がない。

上げることは確かに良いことだし、だからといって税収が減っても困るという、その両方なんですよね。なかなか難しい問題です。

(野崎副議長)

税金が減るばかりではなくて地方交付税も減るわけですから、そこはしっかりと動向を見極めて我々も地方から声を上げないと。